



2015年2月16日

## 博報堂、モノ×テクノロジーで未来を動かす プロダクト・イノベーション・プロジェクト「monom(モノム)」発足

株式会社博報堂（東京都港区、代表取締役社長：戸田裕一）は、プロダクトデザイン、テクノロジーリサーチ、ビジネス開発に強みを持つメンバーを中心に、プロダクト・イノベーション・プロジェクト「monom(モノム)」を発足し、2月16日より本格的に始動いたします。

インターネットやスマートフォンの普及により、新しいサービスやビジネス、メディアやコミュニケーション手法が次々と誕生しました。近年、3DプリンターなどのデジタルツールやマイクロPCをはじめとするデジタルデバイスの普及によって、テクノロジーをつかったモノづくりによる、新たな発想が生まれる兆しを見せています。また、近年のメディア構造の変化や得意先課題の多様化に対して、当社のソリューション領域やビジネス領域、クリエイティブ領域も広がりを見せております。

こうした環境の中「monom」は、博報堂が培ってきた生活者発想を起点に、社外のテクノロジーパートナーとの協業を通じて、これまでになかったプロダクト開発を行うことで、得意先のマーケティング課題の解決に留まらない、新しい生活文化の提案と新しい市場の開拓を目指します。

# monom

monom 第一弾のプロダクトとして、ロボティクスベンチャーのユカイ工学株式会社（東京都新宿区、代表取締役社長：青木俊介）との共同開発による“動き”を楽しむためのロボットドール「iDoll(アイドール)」を開発しています。

iDollは、手のひらサイズのロボットドールです。「音楽をスピーカーで楽しむように、映像をディスプレイで楽しむように、“動き”を楽しむことはできないか」。iDollは、そんな想いから始まったプロジェクトです。ダンスや挨拶から一発ギャグまで、様々な“動き”を音声とともに再生できます。見た目を変えることで様々なキャラクターへの展開も可能です。

ちょっと未来のエンターテインメントが、まもなく動きだします。



手のひらで、未来が動きだす。

# iDoll

2015年3月にiDollの詳細とプロトタイプを発表を予定しています。当プロジェクトの進捗は、下記のiDollプロジェクトサイトにて、随時アップデートいたします。

iDoll プロジェクトサイト URL : <http://idoll.tokyo/>

<プロジェクト概要>

名称：monom（モノム）

リーダー：小野直紀（クリエイティブディレクション／プロダクトデザイン）

略歴：博報堂入社以来、広告、空間、インタラクティブと幅広いクリエイティブ領域を経験。また、社外活動としてプロダクトデザインユニット YOY を主宰。2012 年より 3 年連続でミラノ・サローネに出展。その作品は MoMA をはじめ世界中で販売され、国内外で多数のアワードを受賞している。

メンバー：谷口晋平（ビジネスデベロップメント）

福井良應（ストラテジックプランニング）

金ジョンヒョン（テクノロジーリサーチ）

加藤ユウ（インタラクティブプランニング）

横井優樹（インタラクティブプランニング）

URL：http://mono-m.jp/

<monom 名称について>

monom の「m」には、「magic：気持ちを動かす驚き」「marketing：市場を動かす戦略」「message：世の中を動かす想い」の 3 つの意味を込めており、この 3 つが重なるところに、「move：未来を動かすモノづくり」のアイデアがあると考えています。

mono + magic

モノに、気持ちを動かす驚きを。

mono + marketing

モノに、市場を動かす戦略を。

mono + message

モノに、世の中を動かす想いを。

mono + move

それは、未来を動かすモノづくり。



**monom**

<ユカイ工学について>

ロボティクスベンチャー。ソーシャルロボット「ココナッチ」や、フィジカル・コンピューティング・ツールキット「konashi」など IoT デバイスの製品化を多く手がけている。2014 年には、家族をつなぐコミュニケーションロボット「BOCCO」を発表。共同開発では、メガネ型デバイス「Telepathy One」、次世代型ハンガー「チームラボハンガー」などがある。